

総合学科部通信

12月号 2021年12月14日
発行：青森県立大湊高等学校
総合学科部

2学期は、各年次とも12月の総合学科発表会に向けて、そして自分たちの進路活動に向けて、1学期に設定したテーマについて研究を深めた学期でした。今回の総合学科通信では、各年次の取り組みと12月1日に実施した総合学科発表会の様子について掲載します。

1年次 × 産業社会と人間 下北 HEROES

1年次では、「産業社会と人間」という授業の中で、『下北 HEROES』をテーマに、地域で活躍する企業について研究しました。地域を支える企業とそこで働く人々着目し、その魅力を調査・発見することで、地域理解や職業理解をさらに深めることができました。

STEP1 9月8日(水)

『下北 HEROES』のガイダンスでは、まず企業について学び、その経営戦略における「コンセプト」や「ニーズ」について、深く考えました。



STEP2 10月~11月頃

企業へのインタビュー活動を実施しました。直接訪問するだけでなく、オンラインでのインタビュー活動にも取り組みました。



STEP3 11月17日(水)

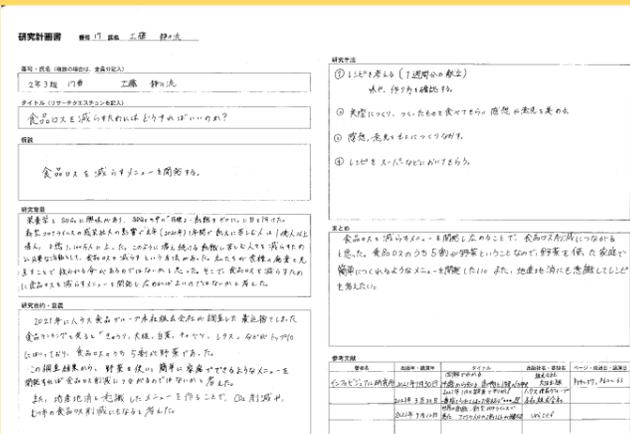
各班が調査した企業について、事業内容や発見した魅力をスライドにまとめ、複数班が同時発表するポスターセッション形式で発表活動を行いました。



2年次 × 課題研究 研究計画書作成

2年次は夏休み明けにそれぞれの進路に関連した分野から課題を探し、研究テーマを設定しました。そして調べ学習やアンケート、インタビューをすることでその分野の情報収集を行ってきました。11月からは発見した課題にどのようにアプローチすれば解決に導くことができるのか、研究手法を考えて計画書にその方法や研究意義をまとめています。

研究計画書紹介 -23HRの例-



研究テーマ 食品ロス

SDGs 2 飢餓をゼロに

研究概要

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、飢えに苦しむ人が1億人も増え、8億1,100人に上った。
- ハウス食品グループの調査によると、最近捨ててしまった食品ランキングは5割が野菜である。

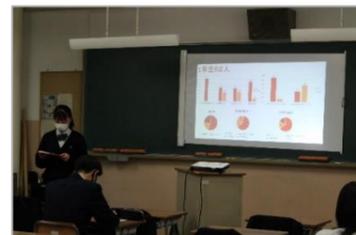
食糧の廃棄を見直すことで、救われる命があるのではないかと？

身近なところに目を向け、焦点を「食品ロス」に絞った。

- ・地産地消を意識したメニューを作ることで、食品ロス削減につながるのではないかと？
- ・野菜を使った、家庭で簡単に作れるメニューを開発する。

3年次 × 課題研究 ゼミ別発表会

ゼミ別発表会では、2つまたは3つのゼミごとに11の会場で全員が発表を行いました。(欠席者は後日)生徒それぞれが選んだテーマで、この数か月間進めてきた成果を研究報告書にまとめ、報告書をもとに発表用のパワーポイントを準備してきました。研究の途中では、研究計画で立てたリサーチクエスチョンや仮説を練り直したり、テーマそのものを変えたことで、より短時間で研究を進めなければならなかったりと苦労した生徒もいました。また、最初はアンケート調査だけで考えていたものの、より深く掘り下げたいことが出てきて聞き取り調査も加え、さらに分析を続けた生徒もいました。その成果が出されていました。



3年次 × 課題研究 年次発表会

ゼミ別発表会で各会場から代表として選ばれた11の個人・グループが発表を行いました。ゼミ別発表からあまり時間がない中で、より良い発表にしたいと、スライドの修正にも意欲的に取り組んでいました。SDGsをてがかりとした課題研究で同じゴールを選んでいても、違う視点や研究手法、成果物が提示され、発表者も発表を聞く生徒も新たな気づきがあったと思います。



自分の希望する進路と関連付けた研究も、そうでなくても、研究を通じて社会課題を見てきた経験は、この先、仕事をするにしても、地域で暮らしていくにも生きてくるものです。研究が終わっても社会課題を「自分事」ととらえて、解決策を考え、行動していく人であってほしいと思います。

2年次 × ジオパーク 第11回日本ジオパーク全国大会

2年次では4月~6月にかけて、課題研究に下北ジオパークを取り入れて課題を発見する手法について学習をしました。そこで挙げられたジオパークの課題に着目した2年次生徒3名が、内容をまとめて日本ジオパーク全国大会で発表しました。本来であれば島根県で発表する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でオンライン発表という形になりました。



参加校の生徒と意見交換をしたことで、防災に数学の視点を取り入れ、命を守るために数学を活用するという、これまでの学習と絡めて物事をみる視点や、下北ジオパークのあり方について深く考えさせられた大会でした。

Q 第11回日本ジオパーク全国大会島根半島・宍道湖中海大会とは？
大会を通してジオパーク事業の取り組みを多くの人に知ってもらうとともに、情報交換や意見交換などから発展・向上につなげることを目的とした大会。

日時：令和3年10月4日(月)13:00~13:50
発表者：2年 二本柳 若菜さん、今 美実さん、中村 琴さん



2年次 × ジオパーク 第5回下北ジオパーク学習・活動発表会



日本ジオパーク全国大会での発表を、第5回下北ジオパーク学習・活動発表会で報告しました。発表後の講評では、「着実な取り組みが見られる発表だった。順序付けられた視点は、そうそうできるものではない」とお褒めの言葉をいただきました。

Q 第5回下北ジオパーク学習・活動発表会とは？
地域学習や総合学習及び地域住民活動の成果を発表し、地域学習の進展と交流を図ることを目的としている大会。

日時：令和3年12月4日(土)13:30~16:00
場所：プラザホテルむつ



第7回 総合学科発表会

1年次「産業社会と人間」、2,3年次「課題研究」の成果を全校とお越しくくださった各来賓の方々に発表し、各自の取組みを紹介しました。各自が取り組んでいる探究型の学習活動も、今後の進路活動や勉強に向けて発展させてく予定です。このページでは、登壇した生徒の発表概要を紹介します。

1年次の発表 下北HEROES!

下北で活躍する企業の魅力を調査・発見し、地域理解や職業理解を深める。



あべファーム with A-berry 株式会社

11HR 七戸孝介くん、金澤羽純さん、久保田優奈さん

「あべファーム」と「A-berry」について、会社設立のきっかけや社長の思いについて紹介します。また、企業の現在と未来に注目して、下北地域や事業の今後の展望に触れながら、その魅力を発信します。



下北HEROES ABOUT 村口産業

11HR 佐藤愛音さん、西村穂香さん、真勢里奈子さん

私たちは、風間浦村で木材の加工と販売をしている村口産業に興味を持ちました。青森ヒバという特定の品種にこだわり、会社を運営している村口産業の魅力にせまりました。



目指せ！いちごの王国

14HR 相馬麻鈴さん、能渡小絢さん、見越ゆいさん、三津谷楓さん

株A-berryの事業内容やコンセプト、企業理念について調査し、その魅力を発見しました。また、代表責任者である阿部伸儀氏に直接インタビューを実施して知ることができた、そのポジティブな人柄の魅力を紹介します。



ボンサーブの美味しい商品を作れる秘密

14HR 曾我音愛さん、岡本葵さん、申賀美心さん、岩佐結衣さん

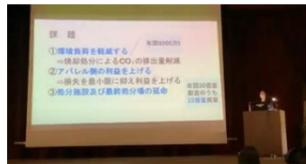
ボンサーブの商品やその強み、また酪農家としての失敗経験や工夫していることについてインタビューを通して調査しました。ボンサーブがこれから取り組みたいことや新しく作りたい商品についても知ることができました。この活動を通して発見したボンサーブの魅力を紹介します。

学校評議員からの講評 (一部抜粋)

- ・発表が的確にまとまっていて、わかりやすかったです。
- ・引用元の紹介もあり、みんなに見てもらいたいという気持ちが伝わりました。
- ・クイズを入れて、興味を引く方法はよかったです。
- ・構成が論理的で、説得力がありました。
- ・調査をしていてわかったことだけでなく、自分たちの考え、案、感想などもしっかり述べられていたことがよかった。

2年次の発表 課題研究中間発表

自分の将来や興味のあることに対して、課題意識を持って調査・研究した内容の中間発表



衣料品の廃棄量を減らすためにできること

21HR 畑中羅乃さん

現在日本では、各家庭で着なくなった服や、アパレル市場で大量生産された衣料品の売れ残りが大量に廃棄されている。それに伴い、焼却の際に排出されるCO2や、処理場の減少などが問題となっている。この問題を解決するために、個人・アパレルの両方の立場でできることは何かを考え、仮説を立てた。アパレル側では、大量生産から受注生産へ方向を変えることなどが考えられる。個人では、リメイク率を上げるなどして長く大切に使うことだ。今後は、誰でも簡単に作れるリメイク品を考案するなどして研究を進めたい。



ゲームが問題意識の改善に使えるか

22HR 吉野藍那さん

私は将来ゲームに関する仕事に就きたい。ゲームは人に会う影響を及ぼすと言われているが、良い影響もあると考える。ゲームは人にどのような影響を与えるのか、気になって調べたいと思った。今回は食品ロスに関するゲームを使用し、意識の変化を調査する。



海洋汚染について

23HR 古川美濃さん

海洋汚染はSDGsにも取り上げられ、海洋生物にいろんな影響をもたらしているのを知り興味を持った。自分の地域の海はどうなっているのだろうと思い、白糠漁港に行ってみるとプラスチックごみがたくさん落ちていた。家庭内でも出るごみもあり、道にポイ捨てしたものが雨や風などで海岸にあるのではないかと考えた。だから道にポイ捨てしなくなるアイデアを考えて少しでも改善できないかと思う。



障がい者差別が起こる原因について

24HR 本間美姫さん

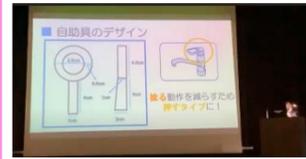
私は福祉関係の仕事に就きたく、学習をしていたところ、障がい者について学ぶ機会があった。年々、差別が減ってきているとはいえ、それでも心理的差別や暴力的差別など多くの差別がある。私は障がい者差別を受ける人が多くいることを知ってほしいと思い、このテーマにした。今後、「障がい者に関する理解を深めることが必要」という方向でポスター作りをしていきたい。

学校評議員からの講評 (一部抜粋)

- ・私もすごく問題意識を持っていたことです。提案もよく考えられていると思いました。
- ・個人の趣味を社会問題解決にもっていているところが良かった。
- ・自分で撮った地元の写真があって、説得力があった。
- ・調査等の予定を明示しているのがよかった

3年次の発表 課題研究

総合学科での学びの集大成として、自分の将来や興味のあることについて、課題意識を持って調査・研究した内容について発表



自立における自助具の存在

31HR 早瀬瑞姫さん

私は在宅リハビリに興味があったことから、自立と自助具の関係について研究しました。現状として、在宅リハビリの不十分さが問題視されており、一人暮らしの高齢者が増えています。この問題に対して、自助具を活用することで、問題の解決につながるのではないかと仮説を立て、誰もが使いやすいと感じるオープンナーを、3Dプリンターを用いて製作しました。



ヤングケアラーの認識と早期発見

31HR 中村颯来さん

SDGsのゴール3「すべての人に健康と福祉を」を手がかりにヤングケアラーの認知度と早期発見のための方法について研究を行いました。アンケートではヤングケアラーの認知度が低い一方で、あてはまる人もいたことがわかりました。むつ市社会福祉協議会の社会福祉士の方への聞き取り調査も踏まえ、認知度を上げるためにWebサイトやアセスメントシートを作成しました。



むつ市民の健康を向上するために

35HR 小川江里奈さん、二本柳侑歩さん、橋本友里さん

私たちの班では、「むつ市民の健康を向上するために」というテーマで、青森県の健康課題である短命をどのようにしたら改善できるのか考え、お弁当の考案と販売を行いました。また、その際に食生活に関するアンケートを実施しました。自分たちで立てた仮説に対し、アンケート結果がどのようになっているか調べ、考察して改善案を考えました。



異年齢交流が小学生に与える効果

31HR 川村咲季さん

教育の問題として人間関係の希薄化が見られ、異年齢集団でのかかわりが減っているのではないかと考えました。そのため、異年齢交流はどのような効果をもたらすのかを知るために大湊高校全校生徒にアンケートを取りました。その結果、大人との交流が少ないことがわかり、交流を取り入れた授業案を考えました。この授業案を将来取り入れ、幅広い世代で関わることのできる社会を教育現場からでも作っていかべきだと考えました。



廃校記 -廃校の活用を行政に促すための研究-

32HR 斎藤誠那くん

下北地域の廃校活用の現状と廃校が地域住民に与えた影響と問題点を調査しました。その結果、校舎を活用してほしいという声が多かったため、廃校の活用をすべきと考えました。実際に、東通村役場やむつ市役所と協力し、廃校を訪問して調査しました。そして、下北地方で行われている活用例と他県での活用例を比較し、下北地方に最も適切な活用方法を考察してみました。

学校評議員からの講評 (一部抜粋)

- ・「ヤングケアラー」の認知度UPに目標を定め、Webサイト、アセスメントシート作成という、実践レベルまで行ったのは素晴らしいです。
- ・自分たちで実際に作って売ったという活動が素晴らしいです。
- ・アンケートの精度や質問方法も分析、反省してとてもよい。
- ・結果の分析や具体的なプランが示されていてよかった。
- ・自分自身の中にある強い興味で楽しみながら研究していることがわかりました。これこそ課題研究です。

情報ビジネス 系列 (3年次)



廃校利用と地域の活性化

35HR 相内爽良くん、新谷美渚さん、笹井七海さん、青山英樹くん、鉄炮麗奈さん、二本柳侑季さん

私たちは下北半島に人を残す、呼び込むために、大湊高校とむつ工業高校の統合に先立ち、廃校を活用してコロナ禍でも生き残れる新たな居酒屋の形成案を考えました。研究するにあたり、グランピング、ほたて、居酒屋の3つのグループに分け、それぞれで下北の活性化に向けて調べ、より実現可能で下北の活性化につながる形にして提案します。

学校評議員からの講評 (一部抜粋)

- ・アイデアが具体的に実現のための財源などもよく調べられている。内容がテーマ毎に区切られ、展開があきずに進んでいた。
- ・大湊高校の生徒という立場を客観的にとらえ、豊富なアイデアとともに研究に昇華したことは素晴らしいです。



発表者の皆さん、お疲れ様でした!